内閣総理大臣賞

人のことを思えるおかあさん

越前市　武生南小学校　二年　川本　一よう

わたしのおかあさんは、しやくしょのおしごとをしています。くらくなってからしかかえってこなくて、おしごとなんか大きらいです。いもうとは、しやくしょのことを「しやくそー。」と言います。本当にそのとおりだなあと思うので、まちがっていても、そのまま聞いています。わたしのおかあさんにだって、学どうのおむかえにまい日きてくれるおかあさんになってほしいし、もっといいのは、おうちに一人でかえっても「おかえり。」と言ってまっててくれるおかあさんがいいです。

でも、この本を読んでいて、さきちゃんのおかあさんが、びょう気の人をたすけようとしているのに、びょういんでもうまくたすけてもらえなくて、さきちゃんのおたんじょう日のこともとっても大じに思っているのにうまくいかなくて、どきどきがいっぱいになったとき、アッと思いました。わたしも、さみしい気もちがいっぱいになって、がまんしてもなみだがぽたぽた出てきて、

おかあさんにでん話をしてしまうときも、わたしのおかあさんも、さきちゃんのおかあさんみたいに、一生けんめいにだれかのことをしているのかもと思いました。おかあさんは、せんきょとか田んぼとかのおしごとをしています。しやくしょには、いろんなおしごとがあって、いろんなおきゃくさんがくるそうです。おきゃくさんとうまくお話できなかったときには、もっとうまくお手つだいできたらよかったと、どよーんとしたかんじになっているときもあります。たくさんの人のために、いろいろな気もちになるおしごとなんだなあと思ったら、ちょっとすごいなあと思いました。

おかあさんは、いつもわたしといもうとのことを一ばん大じと言います。わたしも、おかあさんが一ばん大じです。そんな大じなおかあさんが一生けんめいがんばっている大じなおしごとだから、いもうとが、こんど「しやくそー。」と言ったら、ちゃんと「しやくしょ。」と教えてあげようと思います。